

# 令和5年度 学校園評価(関係者評価)シート

学校園名	加古川市立しかたこども園
------	--------------

**1 教育・保育目標** 「心豊かに感じ、自分らしさを発揮し、生き生きと遊ぶ子ども」

**2 基本方針**

○集団生活の中で、一人一人が自分らしさを輝かせ、生き生きと遊べる環境をつくる。  
 ○子ども達の発達や学びと生活の連続性を考慮し、一人一人が自分の思いや考えをもって、主体的に生活できるようにする。

**3 指導目標**

○生活リズムを整え、健康な心と体を育む。 ○人と関わる喜びを感じ、愛情や信頼感を育む。  
 ○身近な自然や環境に親しみ、科学性の芽生えを育む。 ○よく見、よく聴き、よく考えて、自分の思いを表現する力を育む。  
 ○ねばり強く、自らやろうとする意欲や態度を育む。

**評価基準**

A:できている                      B:だいたいできている                      C:あまりできていない                      D:できていない                      E:わからない

重点目標	評価項目	達成状況	改善の方策
基本的な生活習慣の確立と決まりある生活態度を育成する	○早寝、早起き、食事、運動、挨拶などの生活リズムを整える。 ○思いきり体を動かして遊び、体力の向上を図る。 ○安全に生活するための集団生活のルールや約束を知り、守ろうとし、自分の気持ちをコントロールする。	A	・生活リズムの大切さについて、家庭へも保健だよりで配信した。また、日々の給食で園児が食を楽しみ食事マナーを守ろうと意識できるよう関わり、市の管理栄養士による食育教室や企業によるお腹元気教室等で健康な体作りについて学んだ。 ・戸外遊びの時間を十分に設け、様々な運動用具を用いて体力の増進を図り、体を動かす気持ちよさを感じられるようにした。 ・皆が気持ちよく遊んだり生活したりできるように話し合いの場をもった。個別に伝える必要がある場合も多くあったが、思いをよく聞き、自らどうすればよいか考えられるようにし、自律に導いている。

自己評価の適切さ (関係者評価)	達成状況
・いつ来ても、子ども達は挨拶をしてくれて元気をもらっている。 ・様々な運動用具を使い、体を動かしている。園児の人数に対して園庭も広く、伸び伸びと活動している。	A

<p>様々な体験活動を通して、人と関わる喜びを感じ、愛情や信頼感、自尊感情を育む</p>	<p>○園児が安心感をもって登園し、保育教諭や友達に親しみをもてるような援助を心掛ける。</p> <p>○様々な人との触れ合いを通して親しみを持ち、相手の思いに気付き、その良さや違いを認め合えるように関わる。</p> <p>○園児の心の読み取りを意識しながら保育し、園児同士の心をつなぐ援助を心掛ける。</p>	<p>A</p>	<p>・笑顔で園児の名前を呼んだり挨拶をしたり共感的に関わることで、安心して自己発揮できるように努めた。</p> <p>・コロナ禍では控えていた異年齢交流を進め、園庭で全年齢がともに遊べるよう計画したり、3・4・5歳児でペアをつくり一緒に遊んだりし、互いに優しく接したり憧れをもって真似て遊んだりした。また、地域の方や小中学生、高齢者と世代間交流を行い親しみをもつことができた。</p> <p>・一人一人が自分の思いを言葉や身振りで表すことができるように関わり、友達の思いに気付くことができるように仲立ちした。</p>	<p>・園内での異年齢交流や、地域との様々な交流を進めていくことができています。祖父母参観では、園児の姿が家庭とは違って、友達や先生の中で、生き生きとしている様子を見ることができ、祖父母にとってもよい行事である。今後も様々な人と関わる経験ができるよう計画してほしい。</p>	<p>A</p>
<p>豊かな遊びと経験の中で、豊かな感性や表現力、知的好奇心、科学性の芽生えを 培い、生きる力を育む</p>	<p>○自然事象を話題にしたり、自然物に目を向けたり、虫や小動物を飼育したりして、興味や関心をもてるように保育する。</p> <p>○身近な自然や環境に親しみ、試行錯誤したり協力したりできる環境や援助を意図的に考えて保育する。</p> <p>○自分の考えたことや思いを言葉や身体で自分なりに表現し伝え合いながら、イメージを共有して遊べるよう関わる。</p>	<p>B</p>	<p>・園庭の自然環境は豊かだが、思いを向けられるような環境づくりの継続が難しく、後半は行事が多く自然との関わる時間を十分にとることができなかった。保育者自身が自然に目を向け園児と一緒に感動し、園児が一年を通して身近な自然や環境に興味をもてるようにし、協働していきたい。</p> <p>・園児の自分なりの表現を受容し、共感したり認めたりすることで、安心して表現できるようになり、年齢に応じて友達とイメージを共有して遊ぶことを楽しんでいる。</p>	<p>・自然が豊か過ぎて、自己評価が厳しいのではないかと。送られてくるクラスだよりから、木の実を拾ったり氷で遊んだり、野菜を世話し収穫したりと、季節に合わせて十分に自然に触れて遊んでいることが分かる。</p> <p>・発表会では、子ども達が保護者に見てもらいながら生き生きと楽しそうに表現していた。こども園で培ったものが、先々に社会へと繋がっていく。</p>	<p>A</p>
<p>地域・家庭・学校と連携、協働し、教育・保育を推進する</p>	<p>○地域に情報発信をして協力体制を構築し、地域環境を教育・保育に活用していく。</p> <p>○園児の家庭での様子や園での姿を伝え合い、園児の育ちを相互理解し、信頼を得る。</p> <p>○「学校園連携ユニット」の校種間連携を密にし、連続した学びを保障する。</p>	<p>A</p>	<p>・コロナ禍で控えていた地域との交流を行うことができた。園周辺や寺社等へ出掛けることができたが、園児が地域の中で育つ為に、より地域資源を知り活用できるようにしたい。</p> <p>・各クラスその日の保育活動を書いてホワイトボードに掲示し、連絡帳やクラスだより、登降園時に保護者と共有した。運動会は全園児共に行い、保護者に見ていただくことができ、保護者同士の交流にも繋がった。</p> <p>・トライやる生の受入れ人数や小学校との交流事業が増え、連携することができた。</p>	<p>・地域や小学校へ、歩いたり園バスを利用したりして出掛けていくことができています。地域の中で育つ子ども達には、今後も地域へ出掛け交流の機会をもてるように、連携を図ってほしい。</p>	<p>A</p>
<p>保育教諭としての専門性を磨き、資質の向上を図る</p>	<p>○研修を積み、専門性を高めることで、保育の質をより向上させる。</p> <p>○人権感覚を磨き、保育教諭一人一人の良さを発揮しながら、園児のモデルとなる自分を意識して研鑽する。</p>	<p>B</p>	<p>・園外の研修へ一人平均8回参加することができた。短時間勤務のパート保育教諭へも資料を回覧し、情報共有した。</p> <p>・各クラス年2回、互いに保育を見合い協議する場をもった。交代で研修できるようにしたが、全員の参加は難しかった。特別な支援を要する園児への共通理解を進め、保育教諭同士が話し合う場が必要である。</p> <p>・園内で、倫理・人権研修や子どもの人権、各種事故対応、災害発生時対応、個人情報取り扱い等、様々な研修を行い、学ぶ機会をもつことができた。</p>	<p>・年間通して、行事から先生たちの頑張り、取り組みが見え、よくやっていると分かる。先生たちが笑顔で、みんなで子ども達を守っていく雰囲気があり、チームワークが良い。</p>	<p>A</p>